

2 1 8

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第3回です。

それはつまり彼らの素直さでした。

6期生にも様々な個性を持った子がいました。

小3開講時からTOPに通い続けたGくんは、恥ずかしがりやながら愚直で純粋な性格でした。同じく生え抜きのHさんも手を抜きがちでしたが、TOP愛は人一倍強く持っていました。

小3最後に体験に来たTくんは、不器用ながら人並み外れた努力家で小4スタートで入会、クラスの中心になっていきました。同じく小4前期に入会した帰国子女のYくんは、たどたどしいほどの言葉づかいでしたが、人なつっこい甘えんぼでした。

小4終盤には何事もきっちりやるしっかり者のSさんが転塾してきました。

小5からはおっとりしているものの芯が強いMさん、勉強は苦手と言ひ

ながらよく笑って TOP にしがみついた A さんが入会し、小 6 でも線の細さを見せながらたくましくなっていた Y M くんや、マイペースで飽きっぽい S J くんもここしかないと言って TOP の門を叩きました。

彼らは十人十色のキャラクターでしたが、それでもみんな素直さを持った子たちでした。これはどの学年も TOP 生に共通して見られる資質です。

彼らは TOP の真剣さと楽しさと厳しさの中で、少しずつその背丈を伸ばしていきました。

素直さでいうと小 3 体験時から 3 年半 TOP に通い続けた G くんは、その代表格でした。G くんは前述したように純粋な性格で、みんなに注目されると照れ笑いしながら真っ赤になり、笑いが止まらなくなることもしばしばでした。みんなが G くんをからかい、決してリーダーシップがあるわけでも目立つタイプでもないですが、自然にみんなの中心にいるような、そんな愛されキャラでした。

5 期生の T Y くんもそうでしたが、ご両親が TOP に絶大な信頼を寄せて下さり、それが G くんの迷いのないがんばりを強く長く支えていた気がします。このご両親と担当が一枚岩となって同じ方向を目指すことは本

当に強力で、多くの TOP 生の下剋上受験、そして最難関合格を生み出す土台になっています。

ただGくんはいくつかの課題を抱えていました。その中でも最大の課題は雑さでした。当然低学年のうちはまだ握力も弱く、字も定まりにくいのですが、何よりも怖いのは雑でも構わないという甘えです。これは、本当に採点者の心証を悪くするだけでなく、思考ややりきることへの甘さにもつながります。そしてこの雑さを克服しないままでは大きく到達点は変わってきます。あらゆることで素直だったGくんですが、この雑さだけは長く改まりませんでした。これが後々Gくんの受験に大きく横たわることになります。

(次回につづく)

2020年9月15日

大井 雄之